



地域の人々が地域をつくる

田村 了一さん

福祉ハウス

(南舞岡ボランティアセンター)

介護相談・ボランティア相談 TEL 822-3005

福祉ハウス・南舞岡ボランティアセンターの立ち上げから携わり、地域の人々のつながりづくりを担う田村さんにお話を伺いました。

## きっかけは、民生委員で地域を見たこと

今は、「福祉ハウス・南舞岡ボランティアセンター」(以下、ボランティアセンター)の事務局長として活動していますが、以前はごく平凡な会社員で、市民活動やボランティアの経験は全くありませんでした。業務で海外に出掛ける機会がしばしばありましたが市民との交流の機会はなく、将来は海外の市民と交流したい!と思い、リタイア後、伝統文化である表装の学校に通って修行しました。その後、7年間オーストラリアのパスで地域の人々に日本の伝統文化を教えたりしながら過ごしていましたが、帰国後、民生委員を2年くらいやったことが、地域に目を向け始めたきっかけだったように思います。

民生委員として、地域を少しずつ知っていく中で、現在の介護制度に疑問を持ちました。地域には現在健康な高齢者がたくさんいますが、いずれは支援を求めるようになります。健康な高齢者が地域の支え合いや社会活動を通して少しでも長く健康な状態を保てるような仕組み(介護予防)が必要ではないか。高齢者の多い地域ですが、地域には活動をしたい人はたくさんいるということがわかりました。支え合いで安心して楽しく過ごせる街づくり、そんな仕組みづくりにトライしようという思いが今につながっています。

## 福祉ハウス・南舞岡ボランティアセンター

「ボランティアセンター」は、地域の人たちの支え合いや、つながりの拠点として、平成22年に運営を開始しました。地域の空き家をご好意で貸してもらい、活動の拠点としています。活動を通して、若い世代への魅力ある街づくりを目指すと同時に、高齢者が社会活動を通して、健康で生き生きと暮らせる地域を目指しています。

人と人が支え合える交流の機会をつくり、拠点を中心とした地域のコミュニティづくりを展開しています。地域には、あらゆる分野に長けた人がいて、ここはそれぞれの個性が生きる場にもなっています。今では地域に定着し、「ボランティアセンター」は地域の人々にとって、かけがえのない存在となっています。

初めての活動は「ボランティアセンター」の床や壁などを、地域の人たちと得意分野を活かし、一緒に張替えをるところから始まりました。

## 地域のニーズに合った場所へ

まず、「居場所をつくろう!」と思いました。地域の人たちの交流の場をつくっていく一歩が居場所づくりだと考えたからです。居場所をつくれれば、勝手に集まるものだと思っていました。でも、そう簡単に人は集まりませんでした。そこで、地域のニーズを拾い出すところから始めてみました。それは、勤めていたころに培ったものにつながるものがありました。

ニーズを拾い出し、そのニーズに対して提案し、アプローチしていくこと。ビジネスと同じだと感じました。

今は、地域の人達の「〇〇したい!」という声を大切にしています。ニーズに合わせて、講座を行うこともありますし、講座のあとは、サークルになったりと、さらなるつながりづくりのきっかけとなっています。

そうして、ニーズに合った場にしていくことで、地域にとってかけがえのない存在となっていたと思っています。現在、月に350人くらいの人々が利用していますが、居場所づくりにも、さまざまな仕掛けや仕組みづくりが必要なのだとわかりました。



＜福祉ハウス・南舞岡ボランティアセンター＞



＜写真は手づくりパンの販売会とバザー＞

## 魅力あるイベントを通して

さまざまな世代に魅力を感じてもらえる場にするために、魅力あるイベントの開催も大切です。居場所づくりのためには、まず来てもらうということが第一歩です。

地域の人々の交流をかねたお茶会、読み聞かせの会などを行っています。ニーズに合わせた講座も、整体講座、絵はがき講座、麻雀講座、写真の撮り方講座など多岐にわたります。

時には、新緑の清々しい季節に、おいしいバーベキューとビールで交流する機会を設けたりと、いずれも地域の人々が主役になり、地域が身近に感じられる環境をつくっています。さまざまな魅力のあるイベントを通して、地域が活発になっていると感じられます。



## 多世代交流の場として

「ボランティアセンター」は、地域にとっての多世代交流の場となっています。全部で90人ほどのボランティアが運営に関わって活動していますし、複数のボランティア団体も携わっています。

地域は、みんなのものなので、子どもから、高齢者まで関わるができる環境づくりに力を入れています。家におじいちゃん・おばあちゃんがない子どもたちにとっては、このような拠点なしに、なかなか親より上の世代の人と関わる機会を見つけるのは難しいと思います。

ここでは近くの高校の茶道部部員を中心に、交流茶会なども開催しています。茶室の雰囲気を出した茶会となっており、小学生も喜んで参加をしています。おいしい和菓子に癒されながら、みんなの笑顔が見られる機会です。地域の人たちのお手前もあり、とても楽しい会となっています。このように、多世代が交流できる、大切なつながりづくりを担っています。

## 人と人のつながりづくり

地域にもいくつかボランティア団体がありますが、閉ざされた空間になっているなど感じていました。人と人のつながりを密なものにしていくには、他の団体と交流できる機会をつくっていきたくと思いました。

簡単なところから始めようと思い、まず、「ボランティアセンター」の運営を担うボランティアスタッフの当番表を工夫しました。日常の当番はボランティア団体が主に担っていましたが、団体間での交流が進むように同じ団体同士の当番や近所に住む人同士の当番をあえて避けるように作成しました。よく知り合った人同士でなく、さまざまな地域の人とふれあえる機会となると考えたからです。

何かあったときに、人と人がつながっていることで人が生きる。人と人のつながりで情報の共有が生まれ有機的なコミュニティへと発展します。地味ですが小さなことを一つひとつやっていくことが大切で、積み上げていくということで本当の人と人のつながりに発展していくものだと思います。



<やまぶき工房のバザーの風景>



<舞岡高校茶道部と子どもたちとの交流茶会>

## アクションを起こし、工夫していくこと

地域の人々の居場所をつくるためにも、仕組み・人集め・マネジメントが大切だと、感じています。相談事の処理の仕組みがきちんとしていることも大切ですし、イベントを企画し、広報紙も出し、外に働きかけることも積み重ねが重要です。

何かやりたいという人はたくさんいます。でも、活動をするための仕組みをつくらうという人は少ないと感じています。

仕組みがあった上で、何かやりたい人の思いが活きると思うし、参加していけると思うので、その仕組みづくりは大切だと思います。

また、自分自身、地域で活動をしてきたことで、自分から地域に出ていかないと、相談事も出てこないことがわかりました。待っているだけでは、地域のこと、ニーズもわからない。

居場所をつくっても、待っているだけでは誰の居場所にもなりませんし、全てにおいて、自分からアクションを起こし、工夫していくことが必要になってくるのだと思います。そうしたら、自然な形で地域が繋がっていくのだなと思いました。

今、地域に必要とされているものを、支えている実感があります。ニーズがあるので、義務感を感じています。地域のつながりが濃くなっていることを感じられたときには、やはり喜びを感じます。

## 地域の人が、地域をつくる

これから活動に加わる若い人たちには、ぜひリーダーになってもらえたら良いと思います。地域のお手伝いではなく、担い手として、つくってあげたら嬉しいです。運営に携わってくれる人が増えたら、地域がより良いものになるのではないかと思います。

これからも若い世代に魅力ある街づくりを目指すと同時に、より高齢者が地域で活発に活動できる機会をつくっていきたいと思います。地域の人同士が、お互いに支えられる環境は、とても大切です。

街の外に、街づくりの手助けが必要なこともあります。やっぱり大切なのは、地域の人が地域をつくるということ。そうすることで、本当の街づくりになるのではないかと、と思っています。拠点の維持・管理は地域のカで行い、人と人との交流を活かに、地域でつながりをつくっていく。そういう街づくりをしていきたいと思っています。

**編集後記** 田村さんには地域のコーディネーターの役割を担われているという印象を持ちました。地域に必要とされるボランティアセンターにするための工夫や取組は、他で活動されている方にとっても参考になると思いました。活動のきっかけやボランティアセンターについて、わかりやすく丁寧に説明してくださる姿を通して、地域での田村さんの活動の様子が目に浮かんでくるようでした。

### ◆団体概要

#### 福祉ハウス・南舞岡ボランティアセンター

地域のつながりの拠点として、運営する。地域のニーズに耳を傾け、さまざまなイベントを行う。多世代交流の場であるとともに、社会活動を通じた地域活性化を目指す。